

年次支部協議会出席者名簿（平成27年12月19日）

年次支部協議会					懇親会			
年次	支部長	幹事長	副支部長等	支部協議会役員	支部長	幹事長	副支部長等	支部協議会役員
29			志邨 守夫				志邨 守夫	
30	堀合 辰夫	松浦 治	加藤 段一	(堀合 辰夫)	堀合 辰夫		加藤 段一	(堀合 辰夫)
31	長瀧 富男				長瀧 富男			
32	岩瀬 順郊		吉野 実		岩瀬 順郊		吉野 実	
35					金川 護	成清 治道		
37	庭山 卓	川島 豊臣	慶野 弘子		庭山 卓		慶野 弘子	
39	白石 紀一			柳田 晋二 高橋 丈雄	白石 紀一			柳田 晋二 高橋 丈雄
40	佐々木幸男		新井 孚 西山 勝凱 新井 嘉昭	(佐々木幸男)	佐々木幸男		新井 孚 西山 勝凱 新井 嘉昭	(佐々木幸男)
42	小林 定寿		川島 輝一		小林 定寿		川島 輝一	
43	龍門 海行		小塚 正人 原 健作		龍門 海行			
44	吉永 匡宏	山岡 静子	福田 嘉尚	松木 茂夫		山岡 静子	福田 嘉尚	松木 茂夫
45	相場 有二	山城 博光		室 勝弘 平岩 弘邦 (山城 博光)	相場 有二	山城 博光		室 勝弘 平岩 弘邦 (山城 博光)
46	半澤 勉			増田 晃次郎 才野 智裕	半澤 勉			増田 晃次郎 才野 智裕
48	山口 隆司	佐藤 愛子	榎本 真一	小田 眞一 (佐藤 愛子)	山口 隆司	佐藤 愛子	榎本 真一	小田 眞一 (佐藤 愛子)
54	掛水 省三		伊藤 充	(掛水 省三)				
55	川島 正博							
57	浜田 英明	乗兼 浩明	田川 厚子 村松 聖子	(乗兼 浩明)	浜田 英明	乗兼 浩明	田川 厚子 村松 聖子	(乗兼 浩明)
58	内山 勢	柳 幸季			内山 勢	柳 幸季		
59	林 裕治		鬼頭 淳子		林 裕治		鬼頭 淳子	
63			土田 一博					
元	竹内 恒雄	小川 学		(小川 学)		小川 学		(小川 学)
2	山本 卓		大島 章嗣	(山本 卓)				
11		久保 良太		(久保 良太)				
26	分部由莉子	長谷部由莉			分部由莉子	長谷部由莉		
計	20名	10名	18名	8名	16名	8名	14名	8名

2015年12月19日

年次支部協議会役員会議出席者の皆様

年次支部協議会 学生支援委員会

2015年度 実施総括（速報）

平素は、学生支援委員会の活動の御協力を賜り、誠に有難うございます。

2015年11月14日ならびに12月5日に実施した進路相談会について、速報として実施総括を記載しました。尚、詳細な分析ならびに次年度アクションプランについては、2016年3月の年次支部協議会にてご報告させていただきます。ご承知おきの上、ご一読賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

記

1、実施背景：RG-PDCA（再掲）

2014年度に策定した各種戦略を踏襲（ミッションとターゲットは変更せず）するが、昨今の売り手市場にも関わらずその恩恵を十分に享受できていない状況を鑑み、開催時期の早い学生団体主催の企画と今年度はコラボを行い、我々（年始支部協議会主催）の企画と連動性を持たせるのが望ましいと思料。

➤ ミッション

●学生支援委員会は、自身のキャリアを真剣に考えている学生のために、ロールモデルとなるような中央大学出身のOBOGあるいは中央大学に関わりのある社会人との交流機会を提供する。

●その機会（学生と社会人の接点）を通じて、学生があと一步で社会に自信をもって踏み出せる、自身のキャリア選択に寄与する支援とする。

➤ ターゲット

●今ある姿を認識し、また、あるべき姿を他者（学生/社会人）との対話を通して自覚できる学生

●あるべき姿に近づくために粘り強く努力する行動力（実現力）のある学生

2、目標：RG-PDCA（再掲）

目標も変更せず、以下のとおり

➤ 学生は他者（学生/社会人）との対話を通して価値観の多様性を認識し、キャリア選択の自走化に繋げる。

➤ 学生支援委員会は、自ら切り開くキャリアに自信をもち、社会へはばたく学生を輩出する支援を行う。

3、目標達成に向けた施策（案）：RG-PDCA（再掲）

2014年度の総括より、実施時期を2013年度以前に戻す。

➤ 1-1.進路選択支援企画

- 日程：2015年11月14日（土）（多摩校舎）
主催：CANVAS+主催の進路相談会
規模：社会人（協力者）5人×就職活動生100人規模
形式：進路相談会（主に20代前半）
- 1-2.外国人（留学生）向け相談会
日程：2015年11月14日（土）（多摩校舎）
主催：年次支部協議会 学生支援委員会
規模：外国人（留学経験）社会人（協力者）2～3人×留学生20人規模
形式：①オリエンテーション
②進路相談会
- 2.進路選択支援企画
日程：2015年12月5日（土）（多摩校舎）
主催：年次支部協議会 学生支援委員会
規模：社会人（協力者）20人×就職活動生200人規模
備考：大学が掲げている標語（Go Global）に鑑み、グローバル（Top層）経験に興味関心を喚起することに今年度はトライ、一部協力社会人の職歴を確認
形式：①進路相談会（主に20代後半から30代）
②南甲倶楽部とのコラボ：中央大学OB/OGによる基調講演

4、実施：RG-PDCA

- 1-1.進路選択支援企画
日程：2015年11月14日（土）（多摩校舎）
主催：CANVAS+主催の進路相談会
規模：社会人（協力者）5人・（内定者）4人×就職活動生6人
形式：進路相談会（主に20代前半）
- 1-2.外国人（留学生）向け相談会
日程：2015年11月14日（土）（多摩校舎）
主催：年次支部協議会 学生支援委員会
規模：外国人（留学経験）内定者（協力者）1人×留学生2人
形式：①オリエンテーション、②進路相談会
- 2.進路選択支援企画
日程：2015年12月5日（土）（多摩校舎）
主催：年次支部協議会 学生支援委員会
規模：社会人（協力者）12人×就職活動生12人規模
備考：大学が掲げている標語（Go Global）に鑑み、グローバル（Top層）経験に興味関心を喚起することに今年度はトライ、一部協力社会人の職歴を確認
形式：①進路相談会（主に20代後半から30代）
②南甲倶楽部とのコラボ：大和ハウス工業株式会社取締役常務執行役員芳井様の講演

5、振り返り：RG-PDCA

目標に対する振り返り

- 目標設定ならびにプランへの落とし込みについては精緻に準備
- 広報（周知）の失敗に伴い、多方面からの分析が不可欠。たとえばキャリア選択の自走化に寄与する PR 内容だったのか、ターゲットはどこにいたのかなど。

プランに対する振り返り

- 南甲倶楽部とのコラボは精緻に準備
- チラシ・ポスター以外、大学生の情報収集手段のリサーチを行い、もっとも効果的な手段を検討する必要あり
- 学生団体（CANVAS+）への過剰な期待感を見直しする必要あり。（現状3年生3名、2年生3名、1年生1名）。卒業後間もない若手学員の出身サークル・部・ゼミなど、多方面の学生団体に今後声かけ必要。
- また協力学生スタッフへのベネフィット（お金ではなく、たとえば進路相談に関する手厚いケア）が事前に必要。そのスタッフが伝道師となって他の学生に声掛けを行う仕組みづくりの検討。
- 協力社会人の選定に時間を要した。アタックリストの充実が不可欠。
- 会場の押さえについては、対策が練られ次回以降はスムーズにできるものと思料
- 学生の動きは現時点で振り返るのは早計

その他

- 外部環境のリサーチが必要。キャリアセンター主催のイベントでも定員割れが続出
- 他大学でのイベントでも同様の傾向
- 2015年の11月に経団連加盟企業に対する倫理憲章（採用解禁日）の変更あり、実施時期についてはいくつか用意しながら進める必要あり

以上

年次支部協議会広報部 平成27年度事業計画・中間報告

1、 事業の名称

年次支部協議会 会報の発行 及び 年支部協議会広報活動

2、 事業主体

中央大学学会年次支部協議会 広報部会（担当責任者 佐藤愛子広報部長）

3、 事業目的

- ① 学員全体の緊密なネットワークを構築するために、定期的に会報を発行しホームページの推進と共に、年次支部協議会の広報活動を活発化させ、中央大学の貢献に寄与すること
- ② 学員や学生への広範囲な取材を通じ、年次、地域、職域を超えて参加出来る様な大学関連行事、支部活動の様々な情報を提供することにより、各支部の相互理解、世代間の連携、交流を深めることを目的とする
- ③ 現役学生に対する就職支援、進路相談の情報を提供する
- ④ 新卒会員に対しての学員会及び年次支部協議会のPRや多くの著名なOB会員の紹介シリーズの掲載も含め、卒業後のサポート体制作りを推進していく

4、 事業概要

年間2回程度の会報発行予定

- ① 年次支部協議会事業計画、活動報告、各委員会活動報告
- ② 各支部活動状況紹介、イベント・交流会案内
- ③ ホームカミングデー等の大学関連行事、学生スポーツ応援、音楽会演奏会、講演会等の案内、活躍している学生・サークルの紹介
- ④ 学員OBへの学生支援（就活・復興支援などボランティア活動）の協力依頼
- ⑤ 記載内容は、従来、学員時報、各支部の会報に委ねてきたが、学員時報などで紹介されないようなオリジナルな記事を掲載する

5、 期待される成果

- ① 学員及び準会員に年次支部への加入を促し、年次支部協議会の存在認識や学員会の活動内容の理解がない多くの一般会員にPR効果が期待できる
- ② 会報発行が年次や地域を越えた一般会員、若い世代への幅広い情報提供になり、交流機会の増加、学生への支援活動等の宣伝が、学員及び準会員の大学ネットワーク構築にも貢献出来る

報告～最近は各方面へも取材に出向き原稿寄稿にご協力戴いているので理解も少しずつ深まってきた感があり、好評価を戴けるようになった

6、 会報発行実施時期

平成 27 年度は、27 年 10 月、28 年 3 月頃に 2 回発行予定

7、 報告～平成 27 年 10 月 20 日 年次支部ニュース第 4 号 1000 部発行

各年次支部長、幹事長、全国地域支部支部長に発送

主な内容～（詳細は別添会報参照）

① 中央大学創立 130 周年を祝うホームカミングデー 特集

・第 24 回ホームカミングデーのご案内 詳細

② ホームカミングデーに寄せて（ご寄稿内容）

・2015 年支部結成 2015 年分部支部長

・誇れる母校創立 130 周年を祝う 平成 2 年山本支部長

山本支部長発案【みんなで走ろうタスキリレー】（於：陸上競技場）

・白門 40 年会創立 20 周年・卒業 50 周年を迎えて 40 年会佐々木支部長

・よみがえる卒業から 25 年ホームカミングデーへの想い 44 会松木会長

・中大囃家さんの「オメデトウ！」のために 白門 57 ネット 浜田支部長

・「海外支部長会議」報告 モンゴル支部、57 ネット 東谷由香さん

・「英国で書道と武道」ロンドン支部 エアーズ由希子さん

③ 年支部協議会委員会活動報告内容（活動の一部）

・国際交流センター取組への協賛 ～大学支援委員会

・卒業船上パーティ、ホームカミングデーでの支部設立の協力支援～学員交流委員会

・進路相談会報告（後楽園校舎）～学生支援委員会

・年次支部協議会の HP 掲載内容更新、HP 未設置支部への啓蒙活動～IT 推進委員会

・箱根駅伝応援用横断幕を製作～スポーツ応援委員会

④ 新入会員募集広告

⑤ 活躍する学生達

文化活動、資格試験、スポーツ ～紹介

8、 会報発行予算案

会報発行部数：

10 月発行 1000 部（配布先：各支部 500 部、本部配布 300 部、その他 200 部）、

3 月発行 7000 部（配布先：準会員 6000 部、この他 10 月発行と同じ部数）

会報発行予算：

・総額 700,000 円の内

・学員会本部への支援申請額：700,000 円

① 4 号（1000 部）250,000 円

② 5 号（7000 部）420,000 円

② 会報送料他 30,000 円

大学支援委員会(4つのテーマ)

1. ブランド力向上

- (1) スポーツ応援による支援・・・スポーツ応援団(委員会)と連携・協働
- ① 駅伝チーム強化支援
 - ・10/17 箱根予選会応援 ・11/15 上尾ハーフマラソン応援
 - ・12/13 箱根大平台に「闘魂たぎる火と燃えよ」の横断幕を設置
(地主様のご了解・ご支援・小田原在住 45 学員の設置協力)
 - ② 東京オリンピックに向けた応援強化・・・野球、バレーボール、ラグビー、ボート等
- (2) 広報活動
- ① 来年は、金沢が受験会場になる・・・入学センターに協力(別紙)
(山城事務局長のご尽力)

2. グローバル化支援

- ① 学生のグローバル化対応強化支援
 - ・10/10 大学国際センター主催「英語プレゼンテーション大会」に協賛(別紙)
 - ・11/21 Go Global Japan コンテスト(文科省)の8大学(東日本18大学中)に選出された。(入選できなかったが、一番感動的で他の大学が高評価)
- ② 日本人学生と留学生の自然な交流支援
 - ・学生・社会人(外国人、日本人、海外生活経験のある日本人)からご意見をたくさん頂戴した。
- ③ 学員会海外支部との連携強化
 - ・昭和35年卒業学員(前ロサンジェルス駐在)と連携
 - ・12月 ハワイ支部と交流、意見交換(H26 ビジネススクール卒業)
- ④ 他大学(一橋大学、学習院大学等)の取組みについて、セミナー聴講

3. 実地教育支援(建学の精神:実地応用の素を養う)

- ① キャリアセンターとの連携・・・セミナー講師派遣の協力要請をいただく。
 - ・日本経済新聞社部長(非学員・60 卒業の紹介)と意見交換
- ② 土曜塾(法学部 鈴木先生:大学提言で優秀賞受賞)との連携推進
- ③ ゼミ連合会との連携推進

4. 産学官連携

- ① 地方創生
 - ・香川県県会議員(48 卒業)の紹介により、香川県事務所で県部長、副所長等からお話をお聞きする。
 - ・石破地方創生大臣のセミナー(大臣の講演、地方の活性化について事例討論)聴講
- ② 地域連携・地域貢献
 - ・「県庁おもてなし課」の紹介をいただく。(54 掛水さん)
 - ・大学連携先を策定中

(大学支援委員長 小田眞一)

年次支部学員交流委員会 平成27年度事業計画・中間報告

1、 事業の目的

- ① 年次支部の世代を越えた学員同士の情報交換・親睦・交流を図る
- ② 2016年度新卒支部、若手年代支部、現役学生等への交流会を通じて卒業後の支援・サポート体制作りを構築する
- ③ 中堅年代支部（昭和50年代～平成元年）との交流懇談会の開催により、各世代間の理解を深め連携を図る

2、 今年度の事業概要

《変更箇所あり》

- ① **削除**＜野球部選手達への激励会を開催予定（スポーツ応援団委員会と連携予定）
時期 未定 場所 駿河台記念館 参加費 5000円程度
野球応援観戦後、慰労会などの企画有＞権守前交流委員長退任の為、変更
↓
変更＜スポーツ応援委員会と協力して、秋季リーグ野球応援、箱根駅伝応援等のスポーツ応援の参加呼び掛けを行う＞⇒箱根駅伝予選会応援、箱根駅伝応援
- ② **計画**～ホームカミングデー（10月25日開催予定）時の2015新支部設立に向けて、支援協力体制を整える
報告～2015年3月24日に2015年新支部結成で船上卒業パーティに参加、支援協力を実施した。（年次支部協議会～10名参加）
また2015年10月25日の中央大学創立130周年記念ホームカミングデーの記念式典では壇上で分部2015年新支部長が支部旗を授与され、新支部設立を承認されたのに伴い祝賀会を学食で開催。
各年次支部長はじめ各支部2名の参加要請を依頼、15支部 25名にご協力を戴いたが、2015年卒業生の参加が少数の為、次年度での参加者誘致の方法など再考すべき反省点が残った。
- ③ **計画**～2016年新卒支部の設立準備への支援・協力（例：卒業パーティの開催等の協力）
報告～2016年卒業準備会メンバーや2015年新支部のメンバーとのミーティングなどを通じて、今年度も卒業パーティ等の協力支援を継続的に実施。
実施例～44会支部長の発案で、今後、新支部への支援協力の一環として
44・45会支部総会等に招待し、若手支部育成や交流の足掛かりしていくことの協力申し出があり、さる12月5日忘年会に5名が招待を受け交流を図った。
- ④ **計画**～各支部への交流行事等の開催、ご案内

報告～平成27年度第2回全体会（平成27年12月19日）に於いて、講演会を開催。現在、老若男女に関わらず、国民の関心度が高^いタイムリーだがわかりにくい話題の【マイナンバー制度】について、様々な講演会で講演をされている年次支部担当の室副会長に依頼、開催。
孝親会

- ⑤ **計画**～若手支部・中堅支部会員との交流会を開催し、世代間の理解と親睦を深める（日帰りバスツアーなどの企画も考慮中）
- ⑥ **計画**～解散支部（昭和26年会）へのサポート協力（イベントなどのご案内等）

⑤～⑥の報告～前交流委員長の急な退任で、実施できなかった事項は、次年度計画に変更しご意見を集約しながら情報提供の効率化を図りたい。

- 3、 今年度の事業予算 50000円
内容 若手支部会員との交流懇親会開催ほか